

水戸市新ごみ処理施設事業者選定評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、水戸市（以下「本市」という。）が平成27年7月8日に公告した「水戸市新清掃工場整備・運営事業」の総合評価一般競争入札に係る事業者提案について、基礎審査を実施後、提案書及び入札価格について定量化審査により総合的に審査を行った。

本市は、評価委員会による審査の結果を踏まえ、落札者を決定したので、評価委員会における客観的な評価の結果を審査講評として公表する。

平成28年1月29日

水戸市長 高橋 靖

水 戸 市 新 清 掃 工 場
整 備 ・ 運 営 事 業
審 査 講 評

平成 28 年 1 月

水戸市新ごみ処理施設
事業者選定評価委員会

水戸市新清掃工場整備・運営事業 審査講評
目 次

第1 事業概要（入札公告時）	1
第2 審査方法等	4
第3 最優秀提案者選定結果	10
第4 総評	16

第1 事業概要（入札公告時）

1 事業名称

水戸市新清掃工場整備・運営事業

2 公共施設の概要等

(1) 名称

水戸市新清掃工場

(2) 建設予定地

項目	概要
計画地所在地	茨城県水戸市下入野町字南散野地内
敷地面積	約 8.6ha

(3) 施設の概要

ア ごみ焼却施設

項目	概要
処理方式	ストーカ方式（灰溶融）、ストーカ方式（主灰の外部資源化）、シャフト炉式ガス化溶融方式又は流動床式ガス化溶融方式のいずれかの方式
処理能力	330t/日（110t/24h×3炉）
余熱利用	蒸気、温水、電力
処理対象物	燃えるごみ、可燃残さ、小動物の死骸、焼却対象災害廃棄物（非定期的に発生） なお、不燃残さの焼却処理は、提案によるものとする。

イ リサイクルセンター

項目	概要	
処理方式	破碎	粗破碎＋細破碎＋磁力選別＋アルミ選別＋可燃物選別＋不燃物選別＋金属圧縮成型＋保管
	選別	選別＋圧縮梱包等＋保管
	保管	保管
処理能力	破碎設備	24t/日
	選別設備	31t/日
	保管設備	－（処理を伴わず、保管のみを目的とする。）
処理対象物	破碎設備	燃えないごみ、粗大ごみ、有害ごみ、破碎対象災害廃棄物（非定期的に発生）
	選別設備	びん・缶類、ペットボトル、プラスチック製容器包装、白色トレイ
	保管設備	新聞、ダンボール、紙パック、その他の紙類、布類等

3 事業期間

事業期間は、次のとおりである。

- (1) 事業期間：特定事業契約締結日の翌日から平成 52 年 3 月 31 日までの約 24 年間
- (2) 設計・建設期間：特定事業契約締結日の翌日から平成 32 年 3 月 31 日までの約 4 年間
- (3) 運営期間：平成 32 年 4 月 1 日から平成 52 年 3 月 31 日までの 20 年間
(主灰運搬業務及び主灰資源化業務の業務実施期間は、運営期間と同様である。)

4 事業方式

本件事業は、新清掃工場の設計・建設及び運営に係る業務を事業者が一括して行う D B O (Design:設計, Build:建設, Operate:運営) 方式により実施する。水戸市(以下「市」という。)は、新清掃工場の設計・建設及び運営に係る資金を調達し、新清掃工場を所有する。

また、市は、新清掃工場を 30 年間にわたって使用する予定であり、事業者は、30 年間の使用を前提として本件事業を実施することとする。

5 事業範囲

事業者が行う本件事業の業務範囲は次のとおりである。

(1) 設計・建設業務

- ア 建設事業者は、市と締結する建設工事請負契約に基づき、新清掃工場の設計・建設業務を行う。
- イ 建設事業者は、本件施設の建設に際して、土木及び外構工事、建築物及び建築設備工事、機械設備工事、電気計装設備工事、配管工事並びにその他関連工事を行う。
- ウ 建設事業者は、新清掃工場の建設等に伴って発生する建設廃棄物等の処理・処分及びその他の関連業務、建築確認等の手続関連業務、新清掃工場の試運転並びに引渡性能試験を行う。

(2) 運営業務

- ア 運営事業者は、市と締結する運営業務委託契約に基づき、一般廃棄物(燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ、資源ごみ等)を受け入れ、要求水準書に規定する要求水準を満足する適正な処理を行う。なお、その際に、新清掃工場の運営業務として運転管理業務、維持管理業務、環境管理業務、有効利用業務、情報管理業務、防災管理業務、関連業務等を行う。
- イ 運営事業者は、受入対象物の受入及び計量を行うとともに、市民、許可業者又は排出事業者から直接搬入された受入対象物については、市の規定に即した処理手数料の収受を代行するものとする。
- ウ 運営事業者は、ごみ焼却施設を運転することにより発生する余熱を利用して発電等を行い、新清掃工場内で有効利用するとともに、余剰電力を第三者に販売するものとする。余剰電力に係る収入については、市の収入とする。
- エ 運営事業者は、ごみ焼却施設より発生した主灰又はスラグ・メタルの全量を利活用するため、利活用計画の立案、積み込み、運搬、売却先の選定及び売却を行うものとする。なお、主灰資源化物の売却代金は主灰資源化事業者に、スラグ・メタルの売却代金は運営事業者に帰属する。
- オ 運営事業者は、新清掃工場での処理等により発生した資源物、乾電池、蛍光灯、小型家電等を施設内に適切に貯留・保管し、市に引き渡す。なお、その際、運営事業者は、積み込みまでの範囲を担うものとする。
- カ 運営事業者は、リサイクルセンターから発生した可燃残さをごみ焼却施設へ搬送し、焼却処理するものとする。なお、不燃残さの焼却処理は、提案によるものとする。
- キ 運営事業者は、新清掃工場にて発生した最終処分物を施設内に適切に貯留・保管した後、最終処分場に運搬する。

ク 運営事業者は、周辺住民からの意見や苦情について、市と連携して適切な対応を行う。

ケ 運営事業者は、新清掃工場の見学希望者等について、市と連携して適切な対応を行う。

(3) 主灰運搬業務

主灰運搬事業者は、市と締結する主灰運搬業務委託契約に基づき、ごみ焼却施設より発生する主灰を主灰資源化事業者が所有する主灰資源化施設へ運搬する。なお、主灰運搬事業者は、ごみ焼却施設からの運搬、主灰資源化施設での荷下ろしまでの範囲を担うものとする。

(4) 主灰資源化業務

主灰資源化事業者は、市と締結する主灰資源化業務委託契約に基づき、ごみ焼却施設において発生し、主灰運搬事業者が運搬・搬入する主灰を自らが所有する主灰資源化施設において資源化する。

第2 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 落札者決定までの経過

落札者決定の経過は、表1のとおりである。

表1 落札者決定の経過

日 付	内 容
平成27年7月8日（水）	入札公告 入札説明書等（入札説明書、要求水準書、落札者決定基準、様式集、基本協定書（案）及び特定事業契約の契約書（案））の公表
平成27年7月16日（木） ～7月17日（金）	現地見学会
平成27年7月8日（水） ～7月22日（水）	入札説明書等に関する質問の受付（第1回）
平成27年8月5日（水）	入札説明書等に関する質問の回答（第1回）
平成27年8月6日（木） ～8月12日（水）	参加資格審査申請書類の受付
平成27年8月19日（水）	参加資格審査結果の通知
平成27年8月26日（水）	参加資格審査結果に関する説明要求の受付
平成27年9月9日（水） ～9月10日（木）	対面的対話の実施
平成27年9月18日（金） ～9月25日（金）	入札説明書等に関する質問の受付（第2回）
平成27年10月2日（金）	入札説明書等に関する質問の回答（第2回）
平成27年10月28日（水） ～10月30日（金）	入札提出書類の受付
平成27年12月26日（土）	提案書に関するヒアリング及び審査
平成27年12月27日（日）	開札 最優秀提案者の選定
平成28年1月4日（月）	落札者の決定
平成28年1月8日（金）	落札者の公表

3 水戸市新ごみ処理施設事業者選定評価委員会の設置

提案審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者等5名の委員により構成される水戸市新ごみ処理施設事業者選定評価委員会（以下「評価委員会」という。）において行った。

[委員の構成]

委員 長	栗原 英隆	公益社団法人全国都市清掃会議	技術顧問
副委員 長	渡邊 昭	茨城県弁護士会	弁護士
委員	小林 薫	国立大学法人茨城大学	工学部都市システム工学科 教授
委員	伏見 千尋	国立大学法人東京農工大学	大学院工学研究院 応用化学部門 准教授
委員	吉成 栄一	関東信越税理士会水戸支部	税理士

4 評価委員会の開催経過

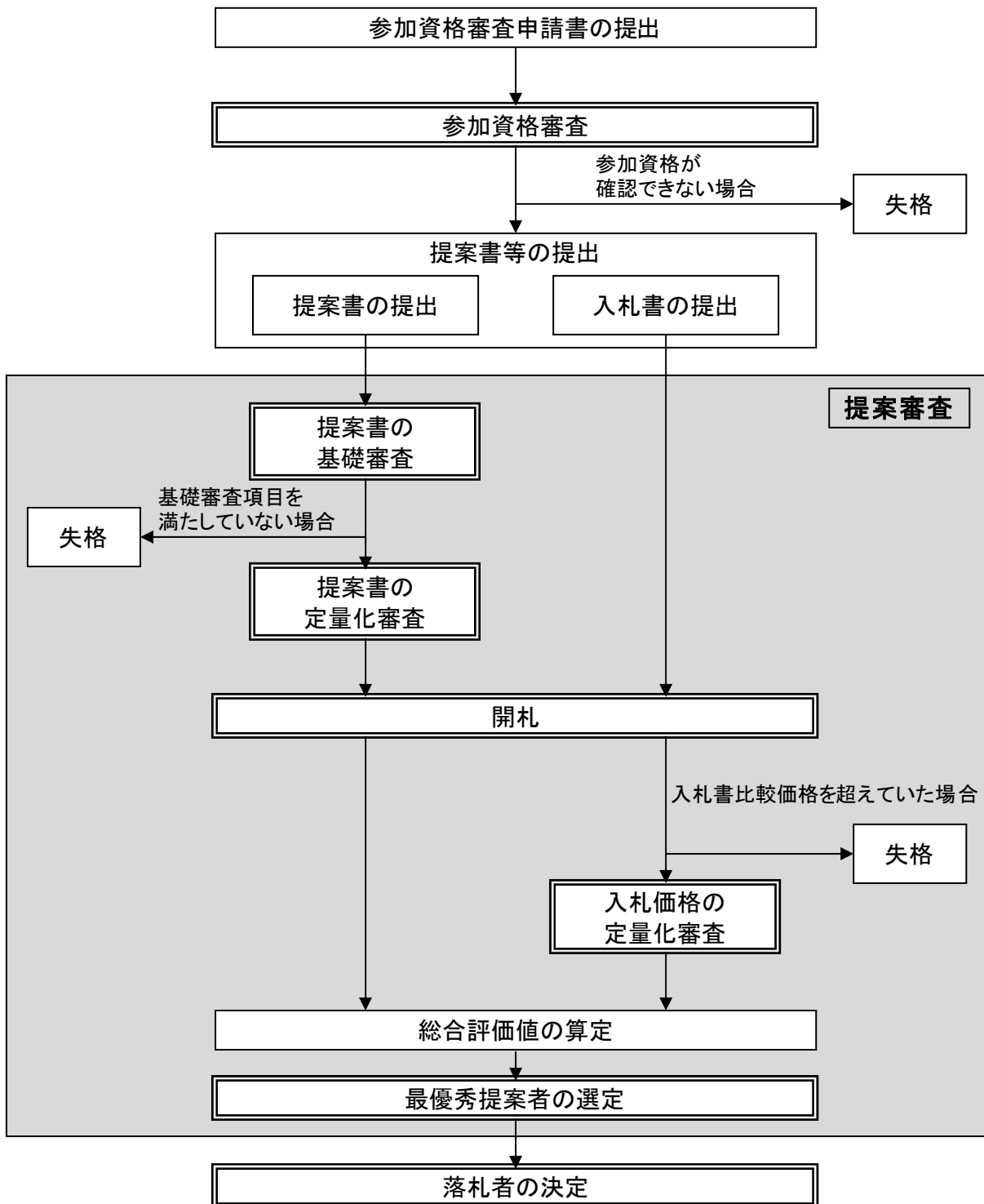
本件事業の事業者選定における評価委員会の開催経過は、表2のとおりである。

表2 評価委員会の開催経過

日 付	内 容
平成27年1月21日（水）	第3回評価委員会 （事業概要及び実施方針（案）に関する説明）
平成27年4月21日（火）	第4回評価委員会 （事業者募集資料に関する審議）
平成27年5月25日（月）	第5回評価委員会 （事業者募集資料に関する審議）
平成27年12月11日（金）	第6回評価委員会 （提案書の基礎審査）
平成27年12月26日（土）	第7回評価委員会 （事業者ヒアリング，提案書の定量化審査）
平成27年12月27日（日）	第8回評価委員会 （入札価格の定量化審査，総合評価値の算定，最優秀提案者の選定，審査講評事項の審議）

5 落札者決定の手順

落札者決定の手順については、図1のとおりである。



※最優秀提案者を選定する評価委員会の事務は図中網掛け部分

図1 落札者決定の手順

6 審査手順

(1) 参加資格審査

参加資格審査は、参加表明書及び参加資格審査申請書の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを事務局において確認した。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

評価委員会は、提案書等に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認した。確認内容は、表3のとおりである。

表3 確認内容

確認項目	内 容
提案書等の確認	・ 提出された提案書等がすべて揃っていること。
提案書の基礎審査	・ 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること。 ・ 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。 ・ 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

イ 提案書の定量化審査

(ア) 審査項目及び配点

評価委員会は、表4に示す審査項目及び配点を設定し、提案書等に記載された内容について、評価を行った。本件事業では民間事業者のノウハウを生かしたごみ処理サービスの効率化を図るため、施設の整備と長期にわたる施設の安定稼働、公害防止基準の遵守、維持補修や用役管理などを包括的に業務範囲とすることから、事業提案を重視した評価を行うものとした。なお、配点は、事業提案に関する得点を60点（全体100点）とした。

表4 審査項目及び配点

審査事項	審査項目			配点	
	大項目	中項目	小項目		
1	設計・建設及び運営業務に関する事項			47点	
	(1) 環境負荷の少ない施設			4点	
	環境保全		① 公害防止基準を満足するための取組み(排ガス)	2点	4点
			② 公害防止基準を満足するための取組み(排ガス以外)	2点	
	(2) 資源循環に向けた施設			12点	
	ア エネルギーの有効活用		① 発電効率及び発電量	3点	5点
			② 省エネルギーの取組み	2点	
	イ 資源化と最終処分		① 焼却灰の資源化	3点	7点
			② 資源化量	2点	
			③ 最終処分量	2点	
	(3) 安全で安定的な稼働に考慮した施設			27点	
	ア 配置動線計画		① 屋外配置動線計画	2点	4点
			② 屋内配置動線計画	2点	
	イ 施設の安全性		① 災害時の安全確保	2点	4点
			② 作業環境	2点	
	ウ 施設の安定稼働		① 処理システムの信頼性	3点	11点
			② 火災・爆発対策	2点	
			③ トラブルの未然防止及び事後対策	3点	
			④ 基本性能の維持及びメンテナンス	3点	
	エ 運転管理		① 体制	2点	8点
			② 搬入・搬出管理	3点	
			③ 運転・維持管理	3点	
	(4) 環境教育及び地域調和に考慮した施設			4点	
	ア 環境教育, 環境学習		見学者対応及び環境学習計画	2点	4点
	イ 景観		デザイン及び景観	2点	
2	事業計画に関する事項			13点	
	(1) 経営計画・事業収支計画			2点	
	事業収支計画		① 経営計画及び事業収支計画策定における基本方針及び考え方	2点	2点
			② 資本金の設定及び資金不足時のSPCへの支援		
	(2) リスク管理方法			3点	
	リスクの管理及び対処方法		① リスクへの対処方法に関する考え方	3点	3点
			② SPCに対するサポート方法及び協議ルール		
			③ セルフモニタリングの実施内容及び頻度		
	(3) 地域貢献			8点	
	地域経済及び地域社会への配慮		① 地元企業の活用及び現地調達	3点	8点
			② 地元雇用	3点	
			③ 地域への社会貢献	2点	
合計				60点	

(イ) 事業提案に関する得点化方法

提案を求めている審査項目においては、表5に示す5段階評価により評価を行い、表6に示す得点算定式により得点化を行った。なお、評価委員会は、最終的な評価を下す前に、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行ったうえで評価した。

表5 審査基準

評価	審査基準	得点化方法
A	当該評価項目において特に優れている	配点×1.0
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	当該評価項目において優れている	配点×0.5
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	当該評価項目において優れているとは認められない	配点×0.0

表6 事業提案の得点算定式

【事業提案の得点算定式】	
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{事業提案に関する得点} \end{array} \right) = \frac{\Sigma(\text{各審査項目の配点} \times \text{審査基準})}{\text{委員人数(5名)}}$	

ウ 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査においては、入札書に記載された入札金額が入札書比較価格を超えていないことを確認したのち、入札価格について、表7に示す得点算定式により得点化した。

なお、入札価格に関する得点は40点（全体100点）とした。

表7 入札価格の得点算定式

【入札価格の得点算定式】	
○最低入札価格 > 定量化限度額の場合	
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \end{array} \right) = 40\text{点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}} \right)$	
○最低入札価格 ≤ 定量化限度額の場合	
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \end{array} \right) = 40\text{点} \times \left(\frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}} \right)$	
※1 定量化限度額：	入札書比較価格×80%の価格
※2 最低入札価格：	全入札参加者の入札価格のうち、最も低い価格。ただし、失格になった者の入札価格を除く。

エ 総合評価値の算出

表8に示す算定式により、各入札参加者の総合評価値を算出した。

表8 総合評価値の算出方法

【総合評価値の算定式】		
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \end{array} \right) =$	$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{事業提案に関する得点} \end{array} \right) +$	$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \end{array} \right)$

第3 最優秀提案者選定結果

1 資格審査

平成27年7月8日に入札公告を行い、平成27年8月12日に参加表明書及び参加資格審査申請書を受け付けたところ、以下の2グループから申請があった。

参加資格審査にて当該グループの入札参加資格を確認し、平成27年8月19日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

なお、評価委員会による提案書の定量化審査にあたっては、審査の公平性を期すため、すべての書類において各企業グループ名は伏せ、表9に示す受付グループ名により識別して評価を行った。

表9 参加表明書及び参加資格審査申請書等提出グループ

グループ名	タクマグループ	日立造船グループ
受付グループ名	ウグイスグループ	メジログループ
代表企業	株式会社タクマ	日立造船株式会社
構成員	株式会社タクマテクノス	極東開発工業株式会社 五洋建設株式会社茨城営業所 昭和建設株式会社 Hitz 環境サービス株式会社
協力企業	株木建設株式会社 日立セメント株式会社 太平洋セメント株式会社 ツネイシカムテックス埼玉株式会社 メルテック株式会社 渡辺産業株式会社 みなと運送株式会社 昭和通運株式会社 有限会社打木運輸 勝田環境株式会社	センター電機株式会社 太平洋セメント株式会社 みなと運送株式会社 ツネイシカムテックス埼玉株式会社 昭和通運株式会社 有限会社打木運輸 中央電気工業株式会社 中電興産株式会社 メルテック株式会社 株式会社東亜環境コーポレーション 株式会社刀屋

2 提案書の基礎審査

平成27年10月30日までに入札参加資格を有する2グループより提案書等が提出された。

提出された提案書等をもとに基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。提案書等を提出した2グループは市が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

評価委員会は平成27年12月11日に提案書の基礎審査を行い、平成27年12月26日に提案書の定量化審査を行った。審査に際し、評価委員会による提案書に関するヒアリングを平成27年12月26日に実施し、入札参加者から提案内容の説明や委員による質疑を行った。

定量化審査の審査項目について適確な提案がなされているかの審査を行い、事業提案に関する得点化を行った。なお、評価は、市の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。審査結果は表10のとおりである。

表 10 提案書の定量化審査に関する得点結果

審査事項	審査項目			NO.	配点	ウグイスグループ	メジログループ
	大項目	中項目	小項目				
1	設計・建設及び運営業務に関する事項				47点		
	(1) 環境負荷の少ない施設						
	環境保全	① 公害防止基準を満足するための取組み(排ガス)		1	2点	1.70点	1.70点
		② 公害防止基準を満足するための取組み(排ガス以外)		2	2点	1.30点	1.70点
	(2) 資源循環に向けた施設						
	ア エネルギーの有効活用	① 発電効率及び発電量		3	3点	2.10点	2.70点
		② 省エネルギーの取組み		4	2点	1.20点	1.30点
	イ 資源化と最終処分	① 焼却灰の資源化		5	3点	2.25点	2.70点
		② 資源化量		6	2点	1.40点	1.50点
		③ 最終処分量		7	2点	1.50点	1.60点
	(3) 安全で安定的な稼働に考慮した施設						
	ア 配置動線計画	① 屋外配置動線計画		8	2点	0.90点	1.50点
		② 屋内配置動線計画		9	2点	1.30点	1.30点
	イ 施設の安全性	① 災害時の安全確保		10	2点	1.20点	1.40点
		② 作業環境		11	2点	1.10点	1.40点
	ウ 施設の安定稼働	① 処理システムの信頼性		12	3点	2.25点	2.25点
		② 火災・爆発対策		13	2点	1.60点	1.60点
		③ トラブルの未然防止及び事後対策		14	3点	2.25点	2.25点
		④ 基本性能の維持及びメンテナンス		15	3点	2.10点	2.40点
	エ 運転管理	① 体制		16	2点	0.90点	1.60点
		② 搬入・搬出管理		17	3点	1.80点	2.40点
		③ 運転・維持管理		18	3点	1.65点	2.25点
	(4) 環境教育及び地域調和に考慮した施設						
	ア 環境教育、環境学習	見学者対応及び環境学習計画		19	2点	1.60点	1.50点
	イ 景観	デザイン及び景観		20	2点	1.50点	1.60点
2	事業計画に関する事項				13点		
	(1) 経営計画・事業収支計画						
	事業収支計画	① 経営計画及び事業収支計画策定における基本方針及び考え方		21	2点	1.20点	1.30点
		② 資本金の設定及び資金不足時のSPCへの支援		22			
	(2) リスク管理方法						
	リスクの管理及び対処方法	① リスクへの対処方法に関する考え方		23	3点	1.80点	2.10点
		② SPCに対するサポート方法及び協議ルール		24			
		③ セルフモニタリングの実施内容及び頻度		25			
	(3) 地域貢献						
	地域経済及び地域社会への配慮	① 地元企業の活用及び現地調達		26	3点	2.55点	2.25点
		② 地元雇用		27	3点	1.65点	2.40点
		③ 地域への社会貢献		28	2点	1.50点	1.40点
合計点						40.30点	46.10点

事業提案に関する事項の各審査項目についての講評は、表 11 のとおりである。

表 11 事業提案に関する事項の講評

項目		講評
1 設計・建設及び運営業務に関する事項		
(1) 環境負荷の少ない施設		
環境保全	①公害防止基準を満足するための取組み（排ガス）	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも環境負荷低減に向けた要監視基準値等の設定、公害防止基準で規定されない環境負荷への配慮等を提案している点を特に高く評価した。
	②公害防止基準を満足するための取組み（排ガス以外）	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも公害防止基準（排ガスを除く。）を満足するため、実効性のある方策等を提案している点を評価した。 メジログループについては、建設工事期間中における環境負荷低減策を提案している点を特に高く評価した。
(2) 資源循環に向けた施設		
ア エネルギーの有効活用	①発電効率及び発電量	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも年間を通じた安定的な発電計画等を提案している点を評価した。 メジログループについては、高い発電効率と発電量を提案している点を特に高く評価した。
	②省エネルギーの取組み	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも計画的な省エネルギー対策等を提案している点を評価した。
イ 資源化と最終処分	①焼却灰の資源化	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも計画的な焼却灰の資源化等を提案している点を高く評価した。 メジログループについては、将来にわたる事業実施の継続性に関して具体的な方策を提案している点を特に高く評価した。
	②資源化量	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも不燃物の焼却処理等による資源化量の最大化等を提案している点を評価した。 メジログループについては、資源化に関してより具体的な方策等を提案している点を高く評価した。
	③最終処分量	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも処理不適物の極小化等による最終処分量の最小化等を提案している点を高く評価した。 メジログループについては、詳細な処理不適物の対応範囲を提案している点を特に高く評価した。
(3) 安全で安定的な稼働に考慮した施設		
ア 配置動線計画	①屋外配置動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも車両と車両、車両と人に関して安全性に配慮した配置動線計画等を提案している点を評価した。

項目		講評
		<ul style="list-style-type: none"> メジログループについては、市民の一般持込みに配慮した配置やサイン計画等を提案している点を高く評価した。
	②屋内配置動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも維持管理における作業性及び安全性に配慮した配置動線計画等を提案している点を評価した。
イ 施設の安全性	①災害時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも予期せぬ災害に対する設計面及び運営面における計画的な対応等を提案している点を評価した。
	②作業環境	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも作業員に配慮した作業環境等を提案している点を評価した。
ウ 施設の安定稼働	①処理システムの信頼性	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも最新技術等を採用することにより、処理システムの信頼性向上等を提案している点を高く評価した。
	②火災・爆発対策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともリサイクルセンターの火災・爆発対策として、計画的な事前・事後対策等を提案している点を特に高く評価した。
	③トラブルの未然防止及び事後対策	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも東日本大震災での経験を踏まえた、安定稼働の継続方策等を提案している点を高く評価した。
	④基本性能の維持及びメンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも事業終了後の整備コスト削減のための具体的な方策等を提案している点を評価した。 メジログループについては、多彩な支援方策を提案している点を特に高く評価した。
エ 運転管理	①体制	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも運転管理体制において、適正な人員配置等を提案している点を評価した。 メジログループについては、施設の安定稼働により配慮した体制構築を提案している点を特に高く評価した。
	②搬入・搬出管理	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも適正かつ効率的な搬入管理方策等を提案している点を評価した。 メジログループについては、より詳細な放射能濃度管理方法を提案している点を特に高く評価した。
	③運転・維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも効率的な運転計画・操炉計画の作成等を提案している点を評価した。 メジログループについては、経済的かつ効率的な計画策定に関して具体的かつ多岐にわたる方策を提案している点を高く評価した。
④環境教育及び地域調和に考慮した施設		
ア 環境教育, 環境学習	見学者対応及び環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも見学者構成に配慮した環境学習プログラムや、それぞれの者に対応した見学ル

項目		講評
		<p>ート等を提案している点を高く評価した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウグイスグループについては、楽しみながら環境学習を行えるよう様々な方策を提案している点を特に高く評価した。
イ 景観	デザイン及び景観	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも敷地南側からの眺望において圧迫感を抑えたデザイン及び緑化計画等を提案している点を高く評価した。 メジログループについては、より具体的に市のイメージを検討し、優れたデザインによる建築物等を提案している点を特に高く評価した。
2 事業計画に関する事項		
(1) 経営計画・事業収支計画		
事業収支計画	①経営計画及び事業収支計画策定における基本方針及び考え方	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも 20 年間にわたる安定した事業経営計画及び事業収支計画等を提案している点を評価した。
	②資本金の設定及び資金不足時の S P C への支援	
(2) リスク管理方法		
リスクの管理及び対処方法	①リスクへの対処方法に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも適切なリスク管理方針、管理体制等を提案している点を評価した。
	② S P C に対するサポート方法及び協議ルール	
	③セルフモニタリングの実施内容及び頻度	
(3) 地域貢献		
地域経済及び地域社会への配慮	①地元企業の活用及び現地調達	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも地元企業の活用と現地調達に最大限配慮した計画等を提案している点を高く評価した。 ウグイスグループについては、より多様な地元企業の活用策を提案している点を特に高く評価した。
	②地元雇用	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともに地元雇用に最大限配慮した計画等を提案している点を評価した。 メジログループについては、地元雇用に配慮しつつ、施設の安定稼働へも配慮した計画を提案している点を特に高く評価した。
	③地域への社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも実効性のある社会的貢献策等を提案している点を評価した。 ウグイスグループについては、きめ細やかな周辺住民との信頼関係の確立方法を提案している点を高く評価した。

4 入札価格の定量化審査

提案書等を提出した各入札参加者の立会いのもとで平成27年12月27日に開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。

評価委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表12のとおりである。

表12 入札価格の定量化審査に関する得点結果

受付グループ名	入札金額（税抜）	設計・建設業務に係る対価		得点 (40点満点)
		設計・建設業務に係る対価	運営業務に係る対価	
ウグイスグループ	44,693,617,000円	20,598,930,000円	24,094,687,000円	38.19点
メジログループ	42,668,000,000円	20,968,000,000円	21,700,000,000円	40.00点

※ 予定価格及び入札書比較価格は以下のとおりである。

予定価格 57,601,800,000円（税込）

（内訳 設計・建設業務に係る対価：28,324,080,000円，運営業務に係る対価：29,277,720,000円）

入札書比較価格 53,335,000,000円（税抜）

（内訳 設計・建設業務に係る対価：26,226,000,000円，運営業務に係る対価：27,109,000,000円）

5 総合評価値の算出

平成27年12月27日に「事業提案に関する得点」、「入札価格に関する得点」を加算して、表13のとおり総合評価値を算出した。

表13 総合評価値の算出結果

グループ名	事業提案に関する得点 (A)	入札価格に関する得点 (B)	総合評価値 (A) + (B)
ウグイスグループ	40.30点	38.19点	78.49点
メジログループ	46.10点	40.00点	86.10点

6 最優秀提案者の選定

評価委員会は、上記の結果に基づき「メジログループ（グループ名：日立造船グループ、代表企業：日立造船株式会社）」を最優秀提案者として選定した。

第4 総評

本件事業は、完成後31年が経過した小吹清掃工場の老朽化に伴い、新たにごみ処理施設を整備する事業であり、水戸市内から排出される燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ、資源物等（以下「燃えるごみ等」という。）を適正に処理するために新清掃工場（ごみ焼却施設及びリサイクルセンター）を整備するとともに、20年間の運営を一体的に行う事業である。また、新たに整備する新清掃工場は、市が所有する唯一の中間処理施設であることから、20年という長期の運営期間にわたって、燃えるごみ等を安全かつ安定的に処理するだけでなく、高い公害防止性能により地域への環境負荷を可能な限り低減する施設であることが求められている。さらに、水戸市における循環型社会構築のための中核施設として、高いエネルギー回収性能や資源回収性能だけでなく、市民の効果的な環境学習の場としての側面もあわせ持った施設であることが求められている。

このような背景を踏まえ、本件事業では、施設的设计・建設及び運営を一括して事業期間を通して発注するDBO(Design-Build-Operate)方式を採用しており、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・建設業務と、効率的かつ効果的な運営業務を期待するものである。

入札に参加した2グループの提案は、本件事業の目的や各業務の内容について市が要求する水準を上回る提案内容であった。2グループにおいては、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。そうした中で提案をまとめた入札参加者の熱意に敬意を表するとともに、深く感謝する。

提案審査においては、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、日立造船グループ（受付グループ名：メジログループ）による提案が、市の期待する創意工夫と事業の効率性を高いレベルで両立していると評価されたものであり、最優秀提案者として選定するに至った。

当評価委員会における審議では、日立造船グループの提案内容に対して、以下に示す配慮事項が挙げられた。

- 維持管理業務及び運営期間終了時における本件施設の補修・更新については、運営期間にわたり基本性能が維持され、さらには運営期間終了後も本件施設の使用期間（竣工後30年間）にわたり大規模な修繕等が不要となるよう、提案内容に基づき適切かつ確実に業務を実施すること。
- 焼却残さについては、提案内容に基づいた高い資源化率及び低い最終処分率を維持した運転・維持管理が行えるよう、運営期間にわたり適正に業務を実施すること。
- 車両動線計画については、施設利用者（特に市民を対象とする。）の利便性及び安全性のさらなる向上が確保できるよう、より一層の検討を期待する。
- 屋内配置動線計画については、施設見学者の安全性のさらなる向上が確保できるよう、より一層の検討を期待する。
- 地域貢献については、さらなる地元企業の活用及び物品等の現地調達が行えるよう、より一層の検討を期待する。

今後は、市と日立造船グループが連携しながら事業を実施していくことになる。同グループの提案は、市が要求する水準を上回る提案であるが、上記の配慮事項については、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において本件事業をより良いものとするため、市と十分な協議を行い、真摯な対応に努め、今後の事業期間にわたり質の高い公共サービスを提供するよう期待する。

平成28年1月

水戸市新ごみ処理施設事業者選定評価委員会 委員長 栗原 英隆